

# 豊後水道におけるタチウオの資源構造の解明



【研究課題名】

海洋水産資源開発事業（ひきなわ：タチウオ＜豊後水道周辺海域＞）

【実施年度】平成23～25年度

資源管理研究センター 資源生態グループ

巨 真吾

開発調査センター 資源管理開発調査グループ

廣瀬太郎・小河道生

共同実施機関：大分県農林水産研究指導センター水産研究部

徳光俊二

## 目 的

豊後水道域ではタチウオは重要な漁獲対象ですが、その漁獲量は近年減少傾向にあります（図1）。効果的に資源を守るためには、生物の特性を把握することや、近年の減少要因を解明することが重要です。タチウオは1年で産卵が盛んな時期が、春（5～6月）と秋（9～10月）に2回あること、春に産れる群（春群）と秋に産れる群（秋群）が合わさって資源全体が変動する事が知られていますが、その詳しいメカニズムはわかっていません。そこで、タチウオの資源管理に向けて、このメカニズムを解明するために必要な資源や生物の情報を調べました。

## 方 法

耳石は成長に従って大きくなり、1年に1本輪紋が形成されます（図2赤矢印）。耳石の輪紋の数を数え年齢を調べました。また、耳石の中心から1本目の輪紋までの長さ（図2青矢印）を測ることで、春群と秋群とに分離しました。そして、漁獲量、年齢と産まれた時期の情報から、春群、秋群それぞれについてタチウオの資源量の経年変化を調べました。

## 結 果

春群と秋群、それぞれの資源の変動をみると、秋群と比較すると、春群は2008年以降、著しく減少していました（図3）。また、毎年産まれるタチウオの子供の量（ここでは1歳を見てください）が、秋群は横ばいですが、春群は2004年や2006年のように多い年と、それ以外の年のように少ない年があり、近年は多い年が出現していないことがわかりました。よって近年の漁獲量の減少は、資源の減少によ

りますが、特に春群の子供の量がすくないことが要因になっている事がわかりました。

## 波及効果

春群の子供が多いと、その後の漁獲量も多いという傾向が明らかになったことから、春に産れるタチウオの親を保護する目的で、平成25年から、大分県では春の産卵期を休漁にする取り組みを行っています。

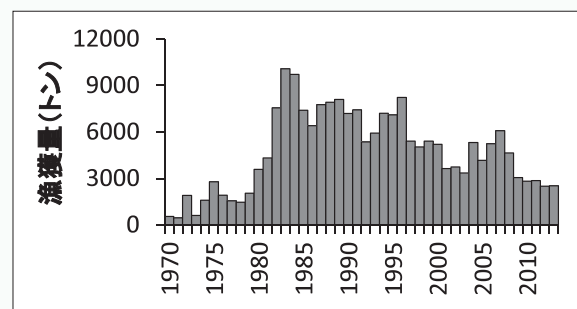


図1 タチウオの漁獲量の推移

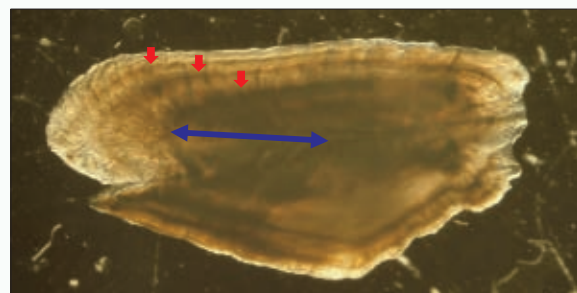


図2 タチウオの耳石の写真

赤い矢印が1年に1本形成される輪紋、青い矢印が中心から1本目の輪紋までの距離の計測位置を示す。

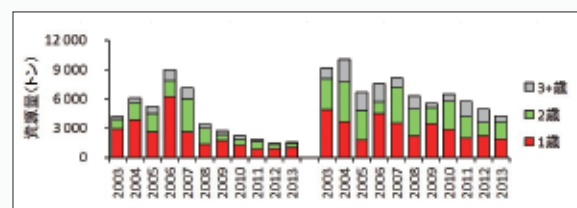


図3 春群（左側）と秋群（右側）の資源量の経年変化  
赤が子供の量を示す。